

## 「おさかなフェア」への参画（流通対策3）

第1回「沖縄のおさかなフェア」は、「新鮮で安全な沖縄のさかなの消費拡大を推進するとともに、水産業の重要性について広く県民に訴え、本県水産業の活性化を図ること」を目的に開催され、平成4年6月20～21日の2日間で約4万5千人の入場があった。

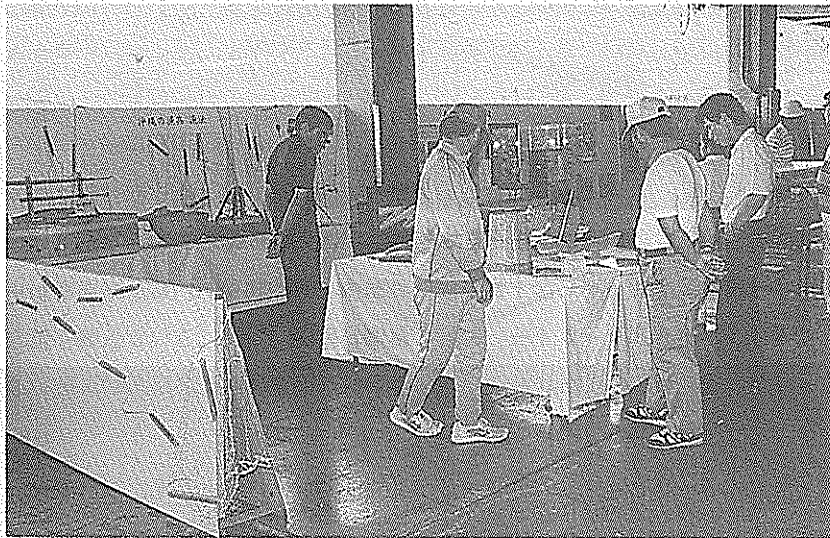
玉那覇 靖

### 1. 概 要

第1回「沖縄のおさかなフェア」は、「新鮮で安全な沖縄のさかなの消費拡大を推進するとともに、水産業の重要性について広く県民に訴え、本県水産業の活性化を図ること」を目的に開催され、平成4年6月20～21日の2日間で約4万5千人の入場があった。

当所においては、流通対策の一環として同フェアの企画段階から参画し、主に漁具漁法、水産業概要、赤土問題の展示、アンケート調査について支援を行った。

特に、運営方法、アンケート調査結果については各地区のイベントで参考になると思われるので掲載するが、同フェアの詳細については、沖縄県漁連発行「漁連漁協だよりおきなわ第4号」を参照されたい。



### 2. 運営方法について

#### 第1回沖縄のおさかなフェア実施要領

#### 1. 名 称

第1回沖縄のおさかなフェア

#### 2. テーマ

伸ばそう 沖縄の水産業

#### 3. 趣 旨

沖縄のおさかなフェアは、水産業関係者が自らの社会的経済的役割の重大さを認識するとともに、「おさかな」を供給する産業としての重要性を広く県民に訴え、その理解と協力を求めつつ、

おさかなの消費拡大を推進し、本県水産業の活性化を図ることをねらいとする。

4. 主 催

沖縄県漁業協同組合連合会

5. 協 賛

沖縄県下各漁業協同組合

6. 後 援

沖縄県、那覇市、沖縄県信用漁業協同組合連合会、沖縄県水産業中央会、沖縄県漁業協同組合長会、沖縄県漁業振興基金、沖縄県漁業信用基金協会、沖縄県漁船保険組合、沖縄県漁業共済組合、沖縄県漁業無線協会、共水連沖縄県事務所、沖縄県漁港協会、沖縄県近海かつお・まぐろ漁業協会、沖縄鮮魚卸流通協同組合、沖縄県鮮業出荷業者組合

7. 会 場

泊魚市場

8. 会 期

平成4年6月19日（金）午前10時～午後2時（初日目）おさかな及びもずく料理コンクールのみ

“ 6月20日（土）午後1時～午後7時（2日目）

“ 6月21日（日）午前10時～午後7時（3日目）

9. 事業内容

(1) 鮮魚及び水産物加工品即売（コーナーの設置）

鮮魚及び水産物加工品を即売することにより水産物の拡販と普及を図る。

(2) 漁協コーナー

地域漁協の特産物を展示即売し、広く県民に紹介するとともに地域水産物及び活魚の消費の拡大を図る。

(3) 各種漁業及び漁具漁法等の展示紹介

- ① 沖合漁業、沿岸漁業即ちマグロ漁業、一本釣漁業等やつくり育てる漁業を中心とする栽培漁業、養殖業等技術のパネル及び現物の展示紹介。
- ② 郷土漁業の伝統的漁具、漁法の紹介。
- ③ 赤土汚染状況。
- ④ 図画展示。

(4) 漁業機器機材等の展示紹介（メーカー）

漁業機器機材等の展示紹介。

(5) 海産物味コーナー

(6) アトラクション

- ① 琉球舞踊などを催すことにより、観客動員を図る。
- ② マグロの解体ショーを行うことにより、イベントを盛り上げる。また、解体したマグロは、

セリ体験に供する。

(7) 図画及び写真の展示と表彰

① 児童達による漁港、漁村風景、人物図画コンクールを実施することにより漁業への関心を高める。

② 一般応募による漁港、漁村、人物等写真の展示。

(8) おさかな及びもずく料理コンクール（6月19日に開催する）の展示と表彰

① 水産物消費拡大の一環として、若年層を重点対象とした魚食の啓蒙普及活動を行う。

② おさかな及びもずく料理コンクール実施要綱に基づいて、各々入賞者3名を表彰する。

10. おさかなフェア運営委員

おさかな運営委員は、主催者、協賛及び後援団体の役員の中から漁連会長がこれを委嘱する。

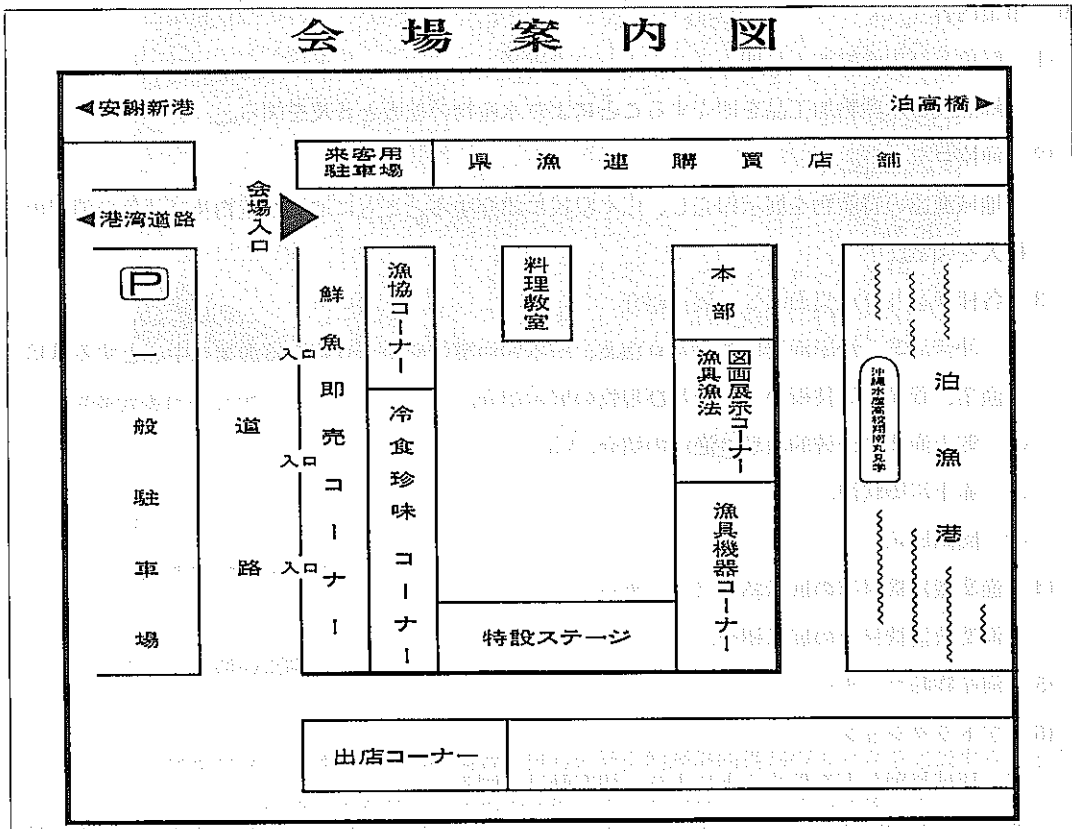
11. おさかなフェア運営事務局

おさかなフェア運営事務局は、主催者、協賛及び後援団体の役職員の中から漁連会長がこれを委嘱する。

12. その他

この要領に定めるもののほか、沖縄のおさかなフェアの運営に必要な事項は沖縄のおさかなフェア運営委員で定めるが、緊急の場合は、漁連会長が決定する。

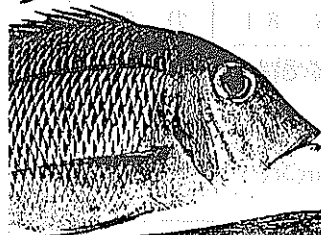
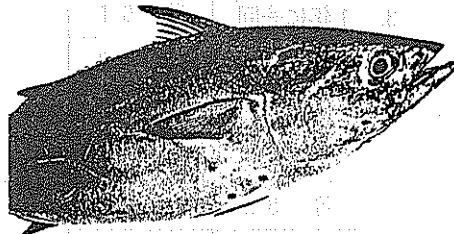
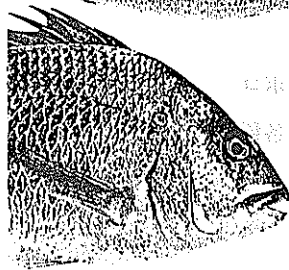
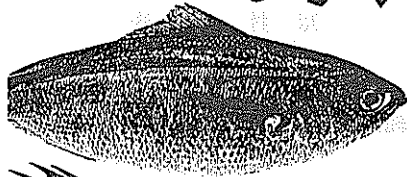
## 会場案内図



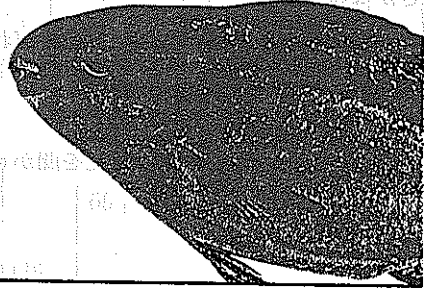
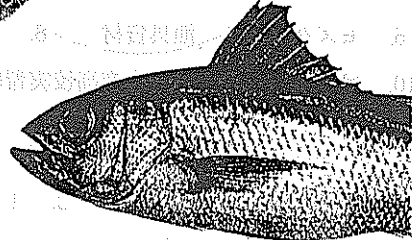
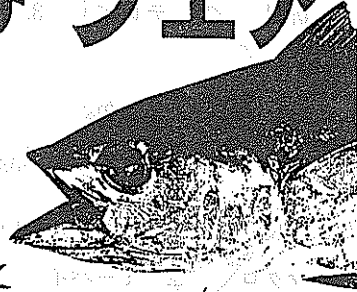
第1回  
沖縄の

# おいかなフェア

平成6/20(土)~21(日)  
4年



みんな  
生き活き、  
優等生。



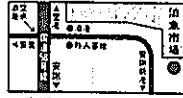
先着500名様  
まで無料配布

☀️ マグロ解体ショー!!

☀️ セリ体験!!

☀️ 鮮魚、水産加工品販売!!

※その他、楽しい催し物が、盛沢山!!



会場：泊魚市場

主催：沖縄県漁業協同組合連合会

協賛：沖縄県下各漁業協同組合

協賛：  
沖縄県、那覇市、沖縄県信用漁業協同組合連合会、沖縄県水産農中央会、沖縄県漁業  
協同組合協会、沖縄県漁業振興基金、沖縄県漁業信用基金協会、沖縄県漁船保険協会  
沖縄県漁業共済組合、沖縄県漁業無線協会、共水産沖縄県事務所、沖縄県漁協協会  
沖縄県近海かつおまぐろ漁業協会、沖縄県魚卵流通協同組合、沖縄県鮮魚出荷業者協会



3. 「第1回沖縄のおさかなフェア」におけるアンケート調査結果について

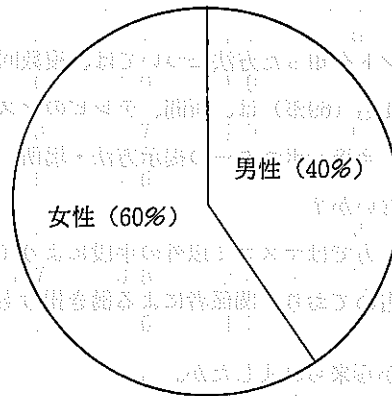
この調査は、平成4年6月20、21日に泊魚市場で行われた、第1回沖縄のおさかなフェア会場の参観者に対して実施したもので、回答が得られた232件についてとりまとめたものである。

(1)-① 性別

男性	92名
女性	140名

表1-1 性別

図1-1 性別

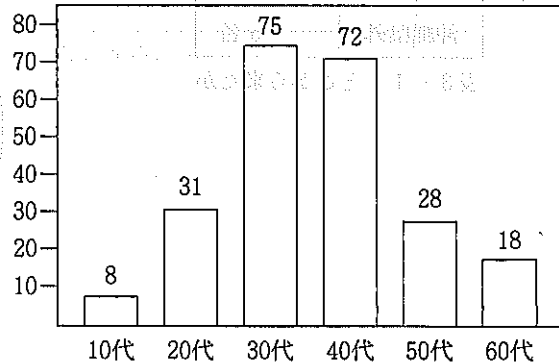


(1)-② 年齢構成

10代	8名
20代	31名
30代	75名
40代	72名
50代	28名
60代	18名

表1-2 年齢構成

図1-2 年齢構成

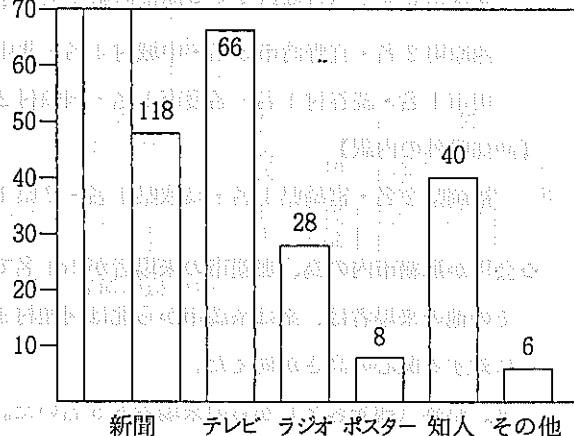


(2) このフェアをどのように知りましたか。

新聞	118名
テレビ	66名
ラジオ	28名
ポスター	8名
知人	40名
その他	6名

表2-1 広報手段

図2-1 広報手段



その他6名の回答内容

- ① 偶然
- ② アドバルーン
- ③ 大橋から見て
- ④ 魚うり

※イベントを知った方法については、複数回答を含め全部で266件の回答があった。そのうちの184名(69%)は、新聞、テレビのマスコミ機関によりイベントを知ったとしていることから、今後、ポスターの掲示方法・場所、チラシの配布方法について検討する必要があるのではないかと。

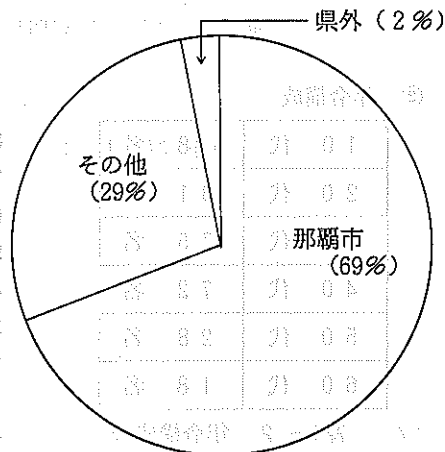
又、一方ではマスコミ以外の手段によりイベントを知った人の中では、知人の40人で全体15%を占めており、関係者による働き掛けも貢献している。

(3) どこから来られましたか。

図3-1 どこから来たか

那覇市	161名
その他	66名
沖縄県外	5名

表3-1 どこから来たか



【その他66名の内訳】

糸満市6名・豊見城村3名・南風原町4名・東風平町1名・与那原町3名・浦添市24名・西原町2名・宜野湾市3名・中城村4名・北中城村1名・北谷町3名・沖縄市7名・具志川市1名・読谷村1名・名護市1名・国頭村2名

【沖縄県外の内訳】

福岡県2名・宮崎県1名・鳥取県1名・?県1名

※会場が那覇市内の為、那覇市の来場者が161名で全体の69%を占めている。

その他の来場者は、南は糸満市から北は国頭村まで、全市町村から来場しており、イベントに対する関心の高さが伺えた。

又、県外(観光客?)からの来場者も5名いた。

(4) なにが良いと思えましたか。

(いくつ〇をつけても結構です)

商品名	人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代
マグロ	140名	6	14	48	43	17	12
ミーバイ	41名	1	4	13	15	4	4
その他の鮮魚	58名	1	13	17	17	6	4
カマボコ	29名	2	0	10	10	5	2
加工品	21名	0	3	7	10	0	1
モズク	49名	2	5	16	14	8	4
漁具資材	7名	0	0	1	6	0	0
マグロ解体ショー	98名	5	17	38	28	7	3
各種展示	24名	1	2	6	13	2	0
民謡ショー	14名	1	4	2	1	5	1
水産高校実習船	26名	0	4	11	3	4	4
料理教室	22名	0	3	6	8	3	2
その他	3名	0	1	1	1	0	0

表4-1 なにが良いか

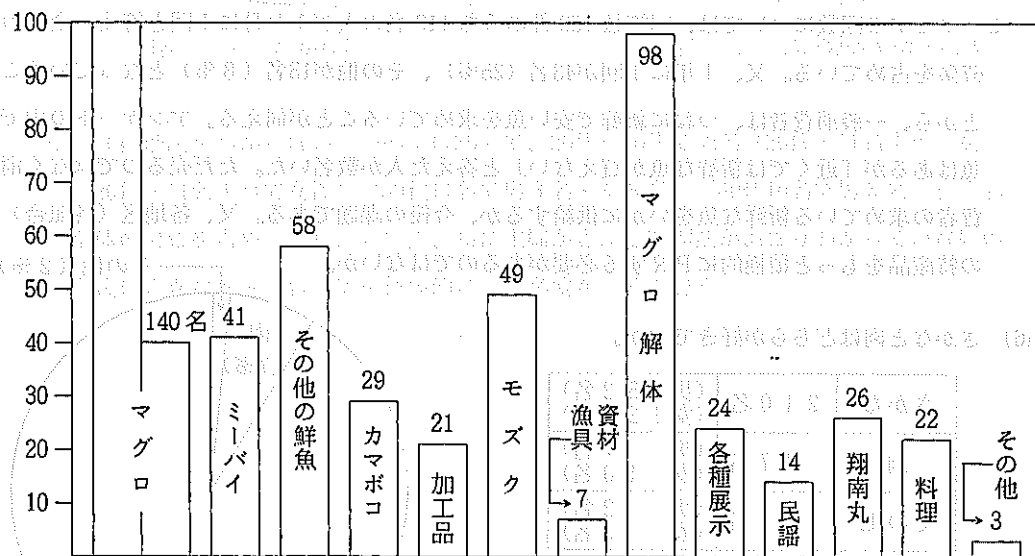


図4-1 なにが良いか



(5) 『おさかなフェア』の回数について

さかなセンターを作る	63名
1ヶ月に1回	113名
1年に1回	43名
その他	13名

表5-1 フェア回数

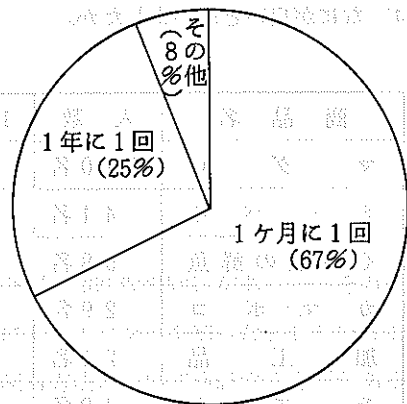


図5-1 フェア回数

【その他13名の意見】

- ◆ 年 4 回 (60代・男)
- ◆ 年 2 ~ 3 回 (40代・男)
- ◆ 年 2 回 (30代・40代・男)
- ◆ 3ヶ月に1回 (20代・男、40代・女)
- ◆ 父の日にあった方がよい (40代・女)
- ◆ 1週間に1回 (40代・女)
- ◆ 6ヶ月に1回 (30代・男・女)

※ フェアの回数については、回答数169件のうち113名の人が1ヶ月に1回と答え、全体の67%を占めている。又、1年に1回が43名(25%)、その他が13名(8%)となっていることから、一般消費者は、つねに新鮮で安い魚を求めていることが伺える。アンケートの中で魚はあるが『近くでは新鮮な魚が買えない』と答えた人が数名いた。ただ売るのではなく消費者の求めている新鮮な魚をいかに供給するか、今後の課題である。又、各地区(各組合)の特産品をもっと積極的にPRする必要があるのではないかと。

(6) さかなと肉はどちらが好きですか。

さかな	210名	(男 82名) (女 128名)
肉	17名	(男 7名) (女 10名)
その他	5名	(男 2名) (女 3名)

表6-1 どちらが好きか

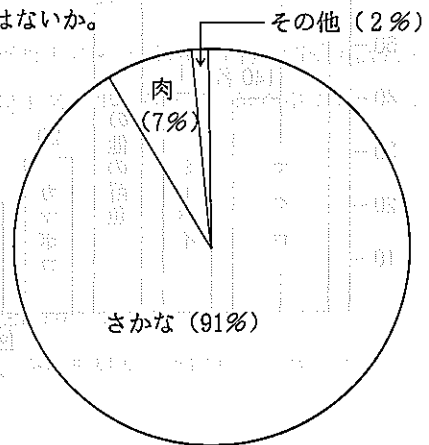


図6-1 どちらが好きか

【その他の意見】

- ◆ 両方好き
- ◆ 野菜
- ◆ 半々

(7) さかなについて

【40代・女】

料理がめんどう	28名	(男19名・女9名)
料理法がわからない	35名	(男7名・女28名)
近くで買えない	50名	(男17名・女33名)
くさい	4名	(男1名・女3名)
値段が高い	105名	(男37名・女68名)
その他	14名	(男8名・女6名)

表7-1 さかなについて

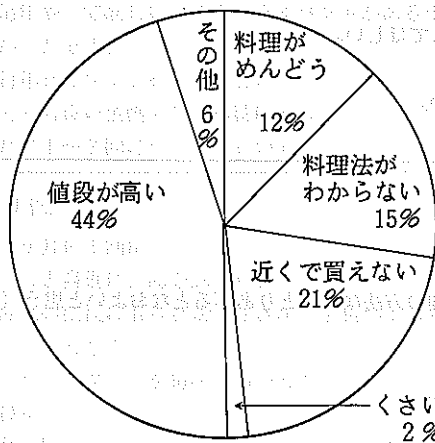


図7-1 さかなについて

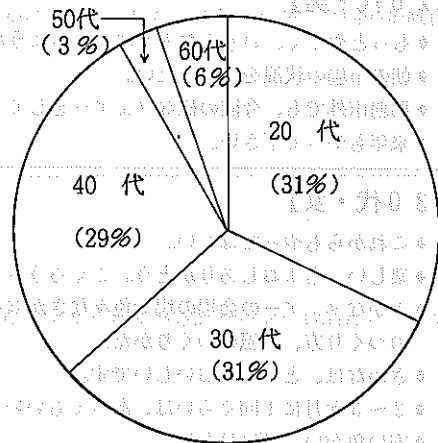


図7-2 料理法がわからない

※ 『料理法がわからない』の内訳は35名で、20代～40代で32名(20代・11名すべて女性)  
 (20代・11名すべて女性) (30代11名で男3名・女8名) (40代10名で男3名・女7名)と  
 全体の91%を占めており、若い人、特に主婦がさかな料理法があまりわかっていないので、  
 今後はさかな料理講習会等を積極的に行う必要があると思う。

【50代・男】

【60代・男】

(8) 自由意見 (どんなことでも意見を聞かせてください)

<p><b>【10代・女】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆魚大好き、市場ではたらきたい。</li> <li>◆おいしい。</li> </ul>	<p>魚が大好きで、市場で働きたいです。おいしい魚が食べたいです。</p>
<p><b>【20代・女】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆つりがしたい。</li> <li>◆タコがやわらかくて、とてもおいしかったです。</li> <li>◆この企画は、ほんとかっさだと思います。すぐたのしかった。2回、3回と続けてほしいと思います。スーパーの魚コーナーが大きくなった感じがたのしい……。</li> </ul>	<p>つりがしたいです。タコがやわらかくて、とてもおいしかったです。この企画は、ほんとかっさだと思います。すぐたのしかった。2回、3回と続けてほしいと思います。スーパーの魚コーナーが大きくなった感じがたのしい……。</p>
<p><b>【20代・男】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆もっとやすく、いろんな人々にかえるような値段にしてほしい。</li> <li>◆朝の市場の状況をみてみたい。</li> <li>◆那覇市外でも、今回の様なフェアをしてもらいたい。</li> <li>◆来年もやって下さい。</li> </ul>	<p>もっと安く、いろんな人々にかえるような値段にしてほしい。朝の市場の状況をみてみたい。那覇市外でも、今回の様なフェアをしてもらいたい。来年もやって下さい。</p>
<p><b>【30代・女】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆これからもやってほしい。</li> <li>◆楽しい、もよおしありがとう。ごろうさま。</li> <li>◆さかなフェアの会場の場で色々なさかなを知り料理の方法などもとりあげるとなおよいと思う (洋風のつくり方、和風のつくりかた)</li> <li>◆さかなは、とってもおいしいです。</li> <li>◆2~3ヶ月に1回ぐらいは、あってもいいと思います。</li> <li>◆安い魚がいっぱいほしい。</li> <li>◆魚の料理の実習なども良いと思います。</li> <li>◆さかな料理にもっと身近になれるといい。</li> <li>◆とてもよかったです。</li> <li>◆マグロ汁がとてもおいしかった。</li> <li>◆珍しかった。</li> <li>◆さかなセンターを作るとよい。</li> <li>◆近くで新鮮な魚が買えたら良いと思う。</li> </ul>	<p>これからもやってほしい。楽しい、もよおしありがとう。ごろうさま。さかなフェアの会場の場で色々なさかなを知り料理の方法などもとりあげるとなおよいと思う (洋風のつくり方、和風のつくりかた)。さかなは、とってもおいしいです。2~3ヶ月に1回ぐらいは、あってもいいと思います。安い魚がいっぱいほしい。魚の料理の実習なども良いと思います。さかな料理にもっと身近になれるといい。とてもよかったです。マグロ汁がとてもおいしかった。珍しかった。さかなセンターを作るとよい。近くで新鮮な魚が買えたら良いと思う。</p>
<p><b>【30代・男】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆パヤオの格安販売を続けてほしい。</li> <li>◆売り場のスペースを広く取ってもらいたい。ゆっくり買い物が出来ない。</li> <li>◆またやって下さい。</li> <li>◆もっと多く魚の量をふやしてほしい。</li> <li>◆料理をその場で即売・〔例〕寿司 (にぎり等)</li> <li>◆毎年開催してほしい。</li> <li>◆5月5日が最高。</li> </ul>	<p>パヤオの格安販売を続けてほしい。売り場のスペースを広く取ってもらいたい。ゆっくり買い物が出来ない。またやって下さい。もっと多く魚の量をふやしてほしい。料理をその場で即売・〔例〕寿司 (にぎり等)。毎年開催してほしい。5月5日が最高。</p>

#### 【40代・女】

- ◆毎日でも食べたい位、お魚が好きです。
- ◆もっとたくさんの方にピーアールして魚について知ってほしい。
- ◆とっても良い企画だと思いますので、これからも続けて下さい。
- ◆もっと安い魚がほしい。
- ◆お魚が新鮮で種類がたくさんあるのにビックリ。いつでも入れないと思ってました。
- ◆各地区にもっと多く、魚をやすく買える所があると良いですねー。
- ◆普段の食事にもっと魚を取り入れたいので、もっと値段が安くなれば良いと思う。
- ◆よい企画だと思います。
- ◆どんな料理にできるのが良い。
- ◆新鮮な魚を時々安く売ってほしい。
- ◆すばらしい事だと思います。安く買えて大変良かったと思います。
- ◆毎年やって欲しい。こういうイベントがある事でアピールになるのではないのでしょうか。今回の企画良かったですよ。
- ◆毎年ぜひフェアをしてほしい。
- ◆とても良い企画で今後も続けてほしい。
- ◆月に1~2回はやってほしいです。

#### 【40代・男】

- ◆3ヶ月に1回位
- ◆もっと身近に、海を感じられた。
- ◆沖縄の県民にもっと新鮮なさかなを食べてもらおうよう、県はアピールすべき。ヘルシー食品としてアピールよろしく。
- ◆こういうフェアを毎年ひらいてもらいたい。
- ◆良かった。
- ◆月1回位の割で、市を開催してはどうか？
- ◆毎月4~5回行う事。
- ◆どしどしやって下さい。
- ◆初めてのさかなフェアとのことですが、観光立県沖縄でもありますので、毎月1回ずつ開催し観光の目玉にしてはどうか。

#### 【50代・女】

- ◆大変良い事業をして下さってありがとう。
- ◆沖縄の魚を知ってもらうために大変良いことです。
- ◆楽しかった。
- ◆健康には魚はいいと思うので、こういう企画は大賛成です。値段の安さにうれしくおもいます。
- ◆安く買えるのがよかった。

#### 【50代・男】

- ◆大変良い事ぞ！
- ◆とっても良かったことだと思います。

#### 【60代・男】

- ◆非常によい。
- ◆新鮮な魚を安く売って欲しい。
- ◆値段が安ければ楽養的に良し。



## 沖縄のおさかなフェア大盛況

4万5000人の人出

伸ばそう沖縄の水産業。「第1回沖縄のおさかなフェア」がこのほど、那覇市内の泊漁港魚市場で開かれ、4万5000人（主催者発表）が入場した。沖縄県漁連が主催し、水産系統団体、沖縄県、那覇市など15団体が後援。県内水産サイドとしては初の一大イベント。

初日、2日目とも開場時間の前から入場者が詰めかけ、フェア会場は終始にぎわった。特に鮮魚や水産加工品の即売コーナーでは、グルクン（タカサゴ）、アカジン（スジアラ）、マグロ、カツオ、ミーパイ（ハタ）などの鮮魚、塩辛、かまぼこなどが飛びように売れた。即売店を出した仲卸の多くが、予定していた2日分の魚をフェア1日目で早くも売り切ってしまう、あわてて魚を手当てする一幕も発生。

オープニングセレモニーであいさつに立った照喜名朝進沖縄県漁連会長は「沖縄の水産業は厳しい経営環境のなかにおいても、安全で新鮮な魚を県民に供給し、また高級中級の生鮮魚介類を本土移出し、本県の経済発展の一翼を担ってきた。広大な周辺漁場を擁（よう）する沖縄の経済発展は、この海の開発の成否にかかって

いる。水産業の振興なくして、本県経済の飛躍的発展は望めない。おさかなフェアを通し、県民に水産業の重要性を考えていただくと共に、魚の消費拡大に結びつけたい」と語った。

アトラクションのマグロ解体ショーは人気を呼んだ。太鼓のリズムに乗って包丁人の上原保さん（マルサン）と宮里玲さん（マルユウ水産）がそれぞれ用意された約25kgのキハダマグロを鮮やかにさばっていくと、観客から盛んな拍手が沸き起こった。解体されたマグロはその場でセリにかけられ、つぎつぎと市価の半額以下でセリ落とされた。

また、会場では、漁具機械の展示、赤土汚染状況のパネル展示のコーナーや、料理教室コーナーなども設置。水産高校の練習船「翔南丸三世」も接岸され、船内が一般公開された。